

首都圏主要駅前デッキにおけるユニットハウスの仮設運用 千葉県柏市柏駅東口ダブルデッキの社会実験

Temporary Use of Prefabricated Modular House at Station-front Pedestrian Deck, Social Experiment at Kashiwa Station, Kashiwa City, Chiba Prefecture

1 背景と目的

商業中心から居住を含む複合へ変容しつつある首都圏中核都市の主要駅前デッキにおいて、ユニットハウスを仮設運用する社会実験を行った。ユニットハウスは工程のほとんどを工場生産し、箱型にして施工現場に搬入するプレハブ建築で、短工期の可動建築として、中心市街地の空き地対策、開発待機地の暫定利用、災害復旧期の応急施設など、まちづくりの分野に用途を広げている。

2 実験の企画

実験の企画は、千葉県柏市でユニットハウス事業を営む三協フロンティア（株）と大学研究室の共同研究（2018 年 10 月～）から始まり、前者が柏商工会議所を介して参加し、後者が副センター（非常勤）を派遣する（一社）柏アーバンデザインセンター（通称 UDC2）と協議（2018 年 11 月～ 2019 年 1 月）、都市再生推進法人として柏駅東口デッキ（図 1、2。通称ダブルデッキ）を管理運用する（一財）柏市まちづくり公社も加わり、ユニットハウスのダブルデッキ仮設に合意した（2019 年 2 月）。2019 年 3 月、ユニットハウス（平面 2,222mm × 5,671mm）2 基を前提に検討開始、大学研究室がデザイン、UDC2 がテナント募集、まちづくり公社がダブルデッキの建築条件を各々進めて持ち寄った。同年 5 月ユニットハウス 3 基、市内パン店の入居、呼称「カシワテラス」が決まった（写真 1、2）。

3 設計と施工

実験の主体は UDC2 と三協フロンティア、基本設計を大学研究室、ユニットハウスの提供と設計・施工を三協フロンティア、ダブルデッキの運用をまちづくり公社というように分担した（図 3）。ユニットハウス 3 基の内、1 基を小規模な展示や集会のできる「インフォハウス」、2 基を店舗等が入居する「にぎわいハウス」とした（図 4、写真 3）。2019 年 7 月 30 日と翌 31 日夜間にクレーンを用いて設置、後日造作を施した。電源をダブルデッキから引いた。上下水道はなく、店舗での調理を不可とした。

4 運用

2019 年 9 月にカシワテラスとして運用を開始した。にぎわいハウスに入居したパン店の月間来客数は 1 日平均 150 人を越える。インフォハウスでは、本実験を含む柏駅周辺の活動をポスターやチラシで広報発信するとともに、UDC2 またはまちづくり公社を通じて地元商工農業者がダブルデッキと合わせて実演や直売に活用している（写真 4、5、6）。



写真 1 企画会議 学生からの提案

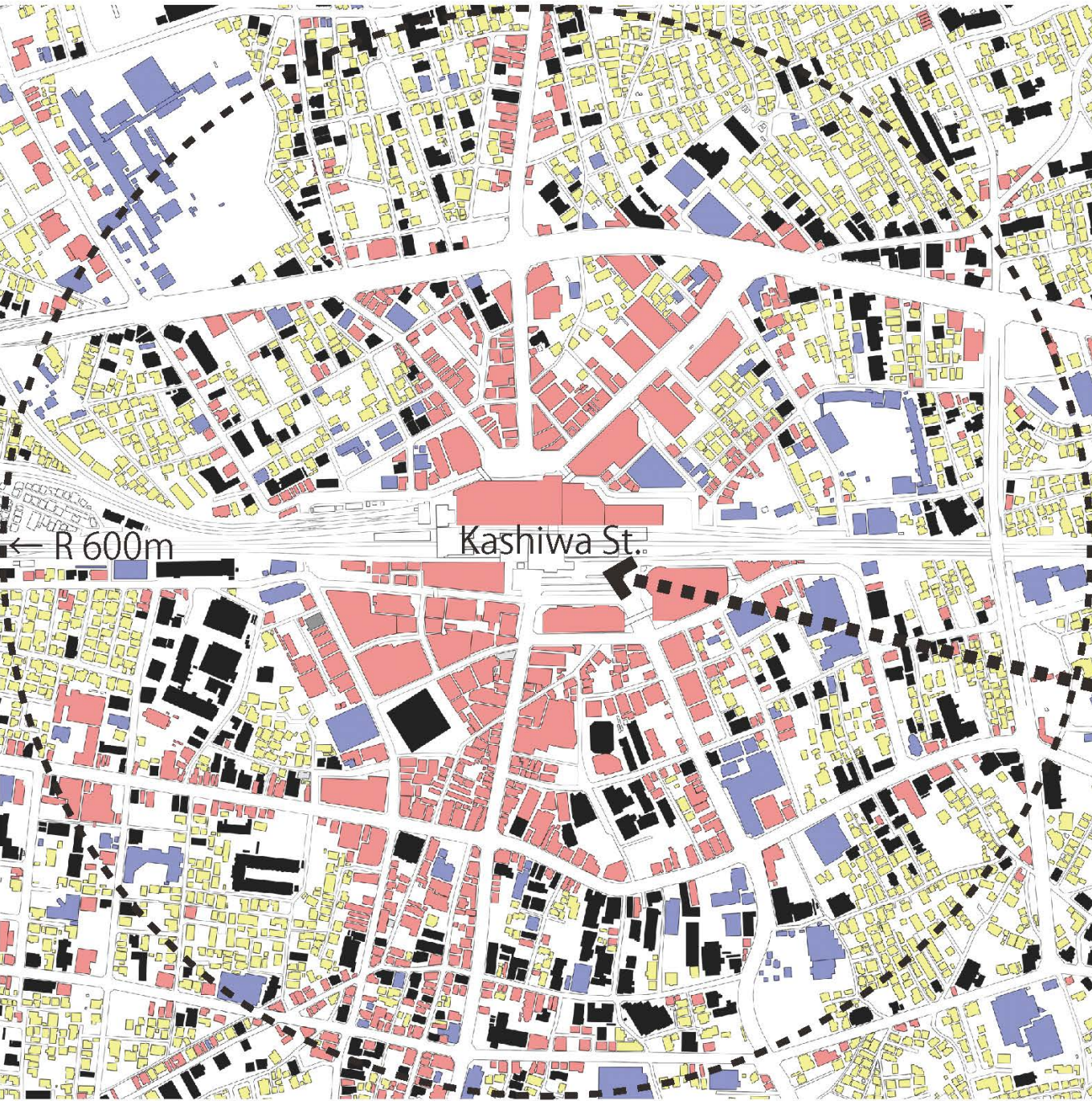


図 1 柏駅周辺建物利用現況図



図 2 柏駅東口ダブルデッキ

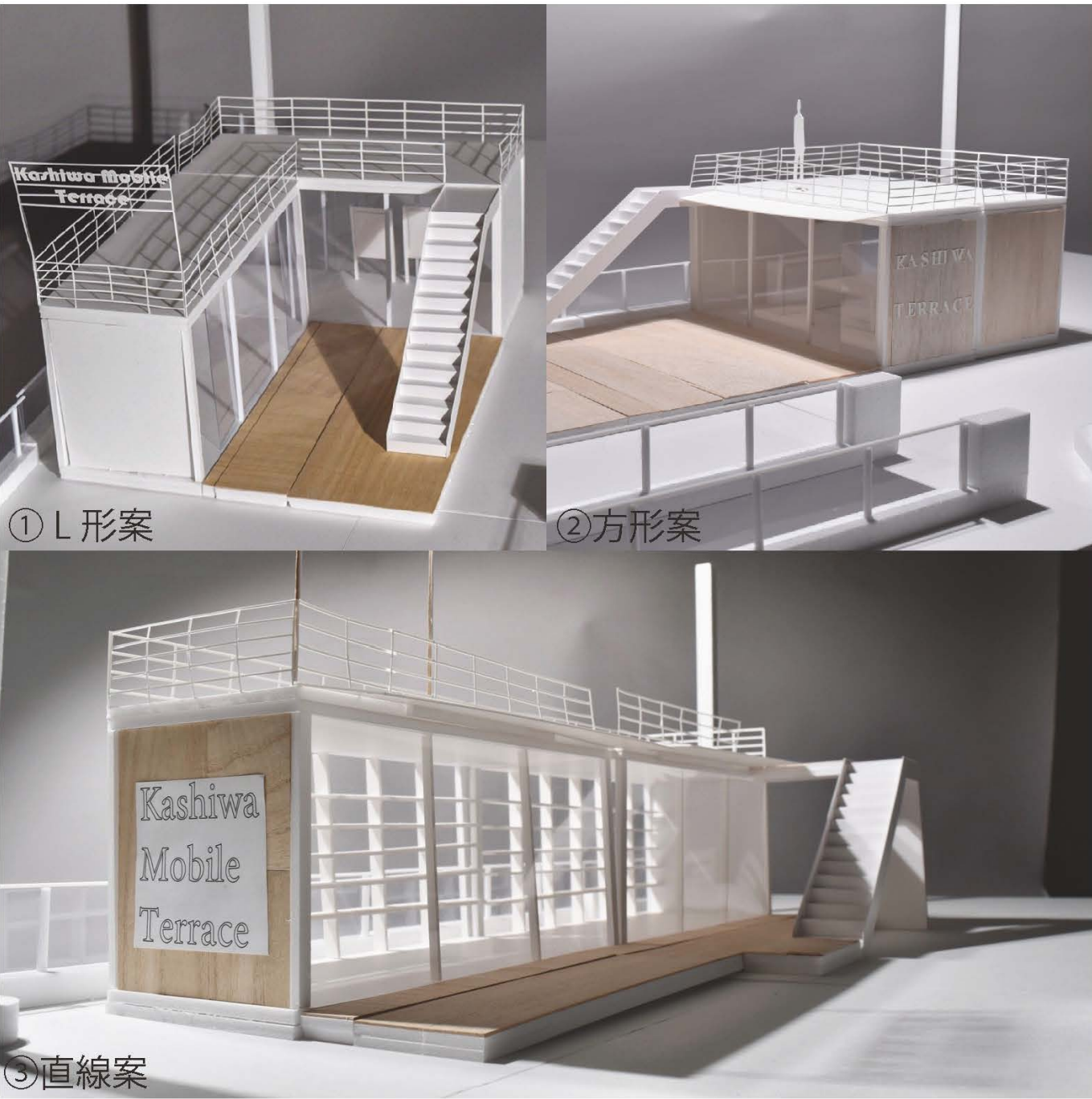


写真 2 検討案模型（ユニットハウス 2 基）

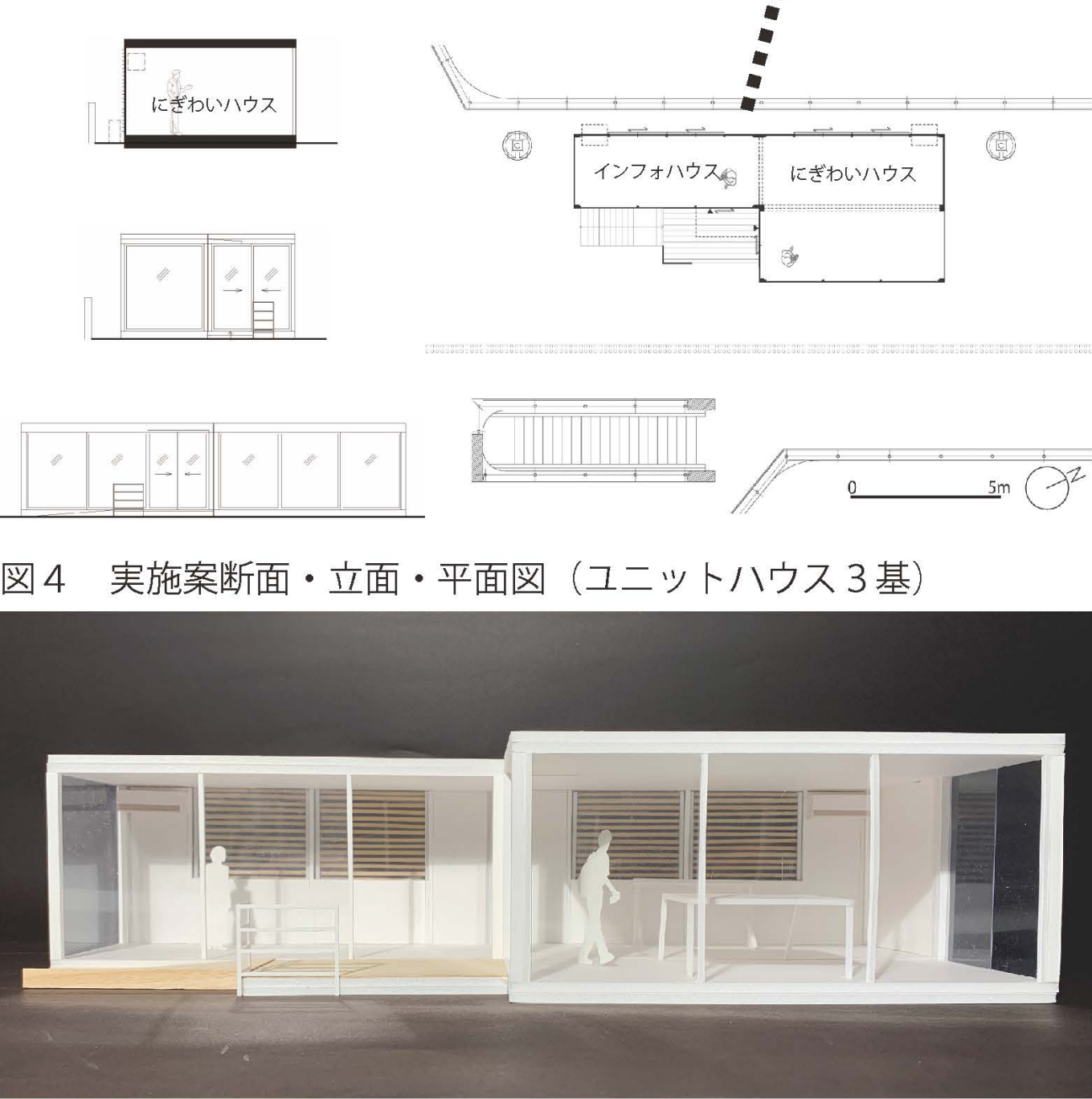


写真 3 実施案模型（ユニットハウス 3 基）

図 3 実験の協力体制



写真 4 にぎわいハウスのパン店



写真 5 ダブルデッキでの地元商工農業者の実演・直売



写真 6 仮設運用中のカシワテラス 手前インフォハウス、奥にぎわいハウス